

今月の

ブックトーク

虫はおきらいですか？

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

夏といえばセミやクワガタとり！という人もいれば、虫は苦手…という人もいますよね。今日は虫が少し好きになるかもしれない本を紹介します。

『虫ガール』2歳半から虫に夢中なソフィアは、幼稚園の時は友達と一緒に虫探しを楽しみました。でも入学すると虫好きが原因でいじめられるようになります。悲しんだソフィアは虫を好きな気持ちを抑え込むようになりました。その様子を見たお母さんは、昆虫学者にメールを出しました。すると世界中の虫好きから励ましの声が届いて…？ この本は本当にあった話で、ソフィア本人が11歳の時に書きました。巻末には、好きな虫についてなど楽しい情報が載っています。1番好きな虫は人懐っこいバッタだそうです。

そこで、次に紹介する本はオンブバッタが大家さんの「バッタマンション」。そこには6つのお部屋があり、虫たちが暮らしています。心配症で働き者のキリギリスと楽天家のマツムシは、性格は違うけれど仲良し。裏庭でおいしいドクダミ茶を飲んでおしゃべりします。マンションの古さが心配なキリギリスは、ひびが10本になったら引っ越そうと思っていたのですが、嵐の翌日、新しいひびが入っていると知って…？ 恥ずかしがり屋のチョウやまじめな本屋のトンボ、声が大きいクワガタなど、ユニークな住人たちとのお話が5つ入っています。絵が素敵で、こんな居心地よさそうなマンションだったら遊びに行きたくなりますね。



ソフィア・スペンサー
(虫ガール)／
マーガレット・
マクナマラ・文
ケラスコエット・絵
福本友美子・訳
岩崎書店



北川 佳奈・文
九杓堂・絵
アリス館

虫好きな人は、虫と話せたらなあと思うことはありますか？ 「チビ虫マービンは天才画家！」では人間の男の子ジェームスとその家に住む甲虫の男の子マービンに友情が芽生えます。ジェームスのお母さんは仕事優先で、新しいお父さんとも喧嘩ばかり。11歳の誕生日会もさんざんで気の毒に思ったマービンは、ジェームスの実父がくれたペン画セットを見つけ、足にインクをつけて絵を描いて贈りました。その出来がみごとだったために、その絵を見た大人たちは息子にすごい絵の才能があると大騒ぎ。これをきっかけに絵画の盗難事件に巻き込まれてしまいます。言葉が通じないながらも、ある方法で気持ちを伝えあい、事件解決に大奮闘する、可愛くて勇敢なマービンと優しいジェームスのことをドキドキしながら応援したくなる本です。



エリース・
ブローチ・作
ケリー・
マーフィー・絵
伊藤 菜摘子・訳
偕成社

最後に紹介する本は「生き物たちが先生だ」。みなさんは生き物の仕組みをまねて技術開発するバイオメティクスを知っていますか？例えばヨーグルトの蓋は、蓮の葉が水をはじく性質をまねています。

著者は、生き物を生きたまま電子顕微鏡で見する方法を編み出しました。そのおかげで、生態が一層わかるようになり、タマムシの羽の色やフナムシが水を吸い上げる方法など地球の環境保全にも役立つかもしれない秘密が判明しました。どんな風に？と気になった人はぜひ読んでみてください。環境変化を生き抜いてきた生き物たちのすごい技に目を向けてみると、同じ地球の仲間として虫への見方も変わってきますよ。



針山 孝彦・著
くもん出版

最後のページのクイズの答え： Q1 ② くっつかない糸をだしているから Q2 ② 牛を飼う仕事
Q3 ② 海の日 Q4 ① 苦い水（「ショコラトル」という古代アステカ民族の言葉が語源です）

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

【お詫び】4～6月号のQRコードに間違いがありました。7月号のQRコードから以前のデータもご利用いただけます。

